

# 柏崎体育

発行所 柏崎体育団

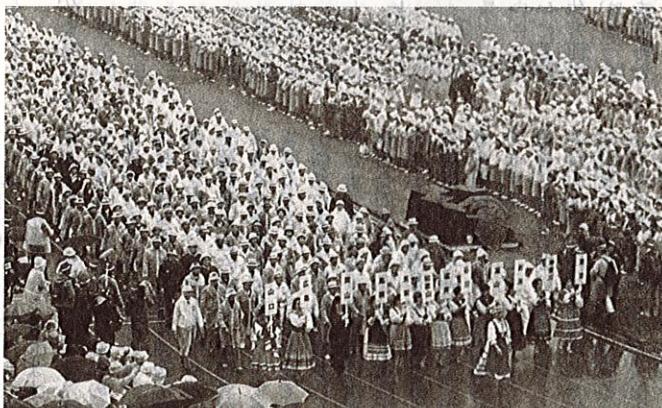
編集者 近藤康信

印刷所 (株)柏崎インサツ



「柏崎シニア」全国壮年サッカー大会で活躍 (4勝1敗ブロック2位)

写真はゴール直前のショットシーン 対宮城県チーム戦

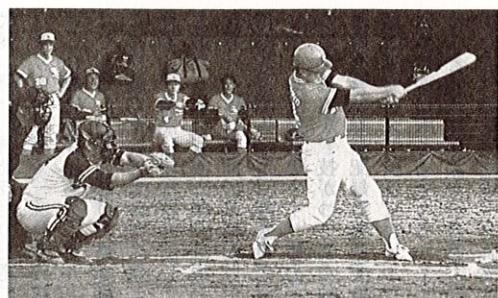


本団の重点施策のトップは「強い選手の育成」。その成果を優秀体育人表彰にみる。競技者賞に対する割合は、一般27%、中学22.4%、大学22.4%、高校14.1%、小学14%。競化の中心となつたジュニア選手は、陸上競技に成績が見られたものの全体的には成績となつてはあらわれなかつた。そうした中で太田選手(一中)のアジアジュニア卓球大会出場は、勇気と育成課題を与えてくれた。本号は強い選手育成の特集号として、加盟団体代表の本音を集録。「柏崎から全国級選手の輩出」めざし再スタートを期す。



種目別指導においては、より専門的指導をということで週末、休日には種目別の協会による指導を行っております。さらにオフシーズンの合同練習や、合宿には教員以外の一般の方々からの指導もお願いし、全国的にも通用する優秀な選手を生み出します。  
柳（野球）野球においては、中学校に専門の指導者が少ないので、技術的な面でのアドバイスをさせてもらっております。高校の場合は、練習相手となる社会人のチームが一チームしかなく、レベル的にも低くて技術向上の役には立っておらず、その上、連盟との交流もほとんどなく、互いに技術指導の面での意見交換が持つてないのが現状です。  
やはり、中、高、会社人の連絡係を持つことが、競技力向上につながると思いますので、連絡協議会のようなものを作る必要があります。

入沢先生、野球に次いで、ミニバスもブームとなっており、やはり地域ごとの指導者や、協会のメンバーによる指導のある所も多いようですね。中学校の場合、女子のチームは一中のみで、小、中、高へと貫しての選手養成がむずかしいようですが、協会がやっておわれる指導者や指導技術向上にかかる面についての実態や、ご意見をお聞きしたと思います。



い研修の場となると考へ実践しております。

司会では、この辺で話題を変えて、ジュニアスポーツの振興について語り合いたいと存じます。柏崎においては、剣道、水泳、女子バスケットボール、などは中学校に部の設置されていないが、学校が多く、小、中、高校と継続した選手養成ができる現状があります。

ジュニアスポーツの振興について

また最近のスポーツ環境の整備やトレーニング技術の合理化などによる競技力の向上はめざましく、優秀選手の育成は、学校の部活動だけでは追いついでいけない現状にあります。

指導者の問題の最後にいろいろな指導を受けたり自分自身を鍛えながら練習に励み、オリンピックまでの栄冠を勝ちとらわいた北原さんによき指導者像についてお話し頂きたいと存じます。

た指導で可能でもあります。

ベルアップにつながり、それが自分のチームの強化にも結びつくのだと語っておられました。やはり、優秀な選手を育てるこの出来る監督は、心を開いて広い立場で地域の選手を見、自分の学校の選手を育てておられるのだと思いました。

またバスケットボールだけに限りませんが、小、中、高の連係により選手の発達段階に即して指導する所も、この

北原（アーチェリイ）外部から  
の優秀なコーチを頼んで来ても  
毎日選手を見ているのは、学校  
の先生なり専任のコーチです。  
選手の心の状態や健康状態、食  
生活まで分るのはその人たちで  
す。その選手のすべてを知ろう  
とする情熱は選手との信頼関係  
を強くすることにつながります。  
こんなことも指導者にとって大  
切なことだと思います。



の振興、強化をはかるにはどうすればよいかと言うことを話し合いたいと思ひます。

最初に、先日の柏崎日報に一  
中の太田君の記事が出ておりま  
した。そこでまず、卓球連盟の  
方からお話し頂きたいと存じま  
す。

藤井（卓長）ます第一に相談で残念なことは、優秀選手が高校生になると県内または県外の高校へ流出してしまうということです。中・高の継続指導のできる体制づくりを何とか作れないものかと考えております。卓連には指導力のあるスタッフがかなり揃っておりますので、中学高校からぜひ派遣要請をして欲しいと願っております。幸い体育団では平成六年度より人材バンク制度が発足することのこと、関係機関に衆知徹底をはかり、多くの派遣要請があるよう、期待しております。

が、卓球はかなり低年齢層から優秀選手の育成に至っています。取り組めるスポーツです。競技に取り組む年齢を早めることは競技力向上に結びつく大事な手段です。太田選手の場合も小学生の時からのお父さんの熱心な指導が実を結んだのです。卓球家族がこの柏崎に多く出ることもジュニアスポーツの振興強化につながることだと思いま



(写真は柏崎日報社提供)

とが多いのですが、私たち社会人との対話の中で先生からは得られない言葉を通しての練習の大切さや技術上のポイントを学びとっているようです。各種目のエキスパートしか伝えられないものもあります。そんな意味で一般社会人を指導者として大いに活用してほしいと思います。

堀（野球）一人の子供が小、中、高と野球を続けることが、技能向上につながり、優秀選手の育成にも結びつくことになると思いませんが、それぞれの段階で野球の深さとか面白さを十分に教えてやらないと、上の学校に入った時に「もう野球は沢山だとかこりごりだ。」という思いでやめてしまう生徒が多く、残念です。しかし、この生徒たちが社会人チームに入るとのびと野球を楽しみ、優れた選手として活躍する例も多いようです。

ジュニアの野球指導のあり方を見直す必要があるのではないかで

しょうか。

司会 今、強い選手を育てようということになると、柏崎の現状を見ても、学校の教育活動外の地域的なパワーとか指導力を必要としているのが実態だと思います。それがない限りには学校も育たないし地域のスポーツレベルも上がらないでしょう。

スポーツ、体育クラブは学校が中心だと言う時代はすでに終

A black and white photograph capturing a dynamic moment in a water polo game. A player in a dark uniform is suspended in the air, having just thrown or caught the ball. He is positioned centrally, with his arms raised high. Surrounding him are several other players, some in mid-water and others partially submerged, all reaching out towards the ball. The background features the goal net and the edge of the pool. The scene conveys a sense of intense action and competition.

ここで一つ問題があるのは小学生です。学校で陸上やミニバースなどの違うスポーツを五時までやり、その後にスイミングで来るのでも体力が続かず、成果を上げられません。また、他のഫーツでも言えるのですが、強い選手を市外の高校や他県に出さないようがんばる必要がちります。高校に強い選手を送ることで、他の選手に目標ができ

柳（野球）ジュニアの指導で問題があるのは、小学生野球などで、発達段階を無視した長時間の練習とか、無茶な練習で肩、肘などを痛めたり、中学校に入つてから野球への意欲を失つてしまふ子供があるということです。これからジュニアの指導については子供の発達段階と、栄養や休養にまで十分留意してその上でがんばらせるといった専門家の指導が大切であると考えます。

松尾（水泳）水泳の場合には、10～12月までのオフシーズンには柔軟な身体づくりと、腹筋、背筋を中心とした筋力づくりをやります。身体の固い選手ほど故障が多いようです。小学校3～4年でもう身体が固くなつておらず特に足首と肩の固さが目立ちます。種目に入る前の基礎体力づくりを小学校段階でぜひやつてほしいと思います。高校生になつた時にはバーベルを持つて筋力トレーニングをやらないと全国に通用する選手になれないのですが、それまでの段階での基礎体力がないため、かなりペースを落としたトレーニングとなり、泳力も伸びないという結果になってしまいます。まず柔ら

かでパワーのある筋肉を持った基礎体力のある生徒に育てることが、ジュニアスポーツの強化につながることだと思います。司会 最近の学校での体育の授業はスポーツ化し、楽しむという方向に流れ、基礎体力づくりといった面がおろそかになっているという点は、ご指摘通りだと思います。

ジュニアの段階では、スポーツの楽しみ、面白みを体感させることが大切で、体力づくりや技術指導ばかりに走りすぎると、上級学校に入った時にスポーツ離れをおこすのではないかと言いう意見がある反面、一方では強い選手を育てるには小さいうちからの積み重ねが大事という意見があります。

それぞれの発達段階でどういふ指導をすべきかという点については議論が分かれる所だと思います。

ところで、柏崎は県内のスポーツ先進地と比べてみると、地域的なスポーツクラブ、スポーツ教室の振興策がおくれているような感じがするのですが、この辺のことについてはいかがでしょうか。

品田(ソフトテニス) 来年度は県の連盟として全国小学生テニス大会の誘致を決定しております。そこで数年前から当連盟でもジュニア教室を夏休み二週間

前後の日程で開催しております。ところが対象を小学校五・六年生にしたいのですが、中学校の一年生しか参加がありません。しかし最近の学校での体育の授業はスポーツ化し、楽しむといふ方向に流れ、基礎体力づくりといった面がおろそかになっているという点は、ご指摘通りだと思います。

市地区だけが小学生のテニス人口がゼロに近く取り残されております。本年度高校で国体出場を果たした選手や高校二年の団体チームが県優勝していますが、その選手の半数は、両親のいずれかが、かつてのプレーヤーであって、小さい時から親のコートを受けながら育った選手です。

五年ほど前に小学校長会に小学生のジュニア教室への呼びかけをお願いしたことあります。しかしミニバスをはじめとしたクラブや活動がすでに多くあり、児童の数も年々減少しており、無理なのではというご返答でした。

ジュニア育ちが多くなっています。ところで、柏崎は県内のスポーツ先進地と比べてみると、地域的なスポーツクラブ、スポーツ教室の振興策がおくれているような感じがするのですが、この辺のことについてはいかがでしょうか。

入沢(バスケットボール) 学校体育の中のクラブとしてミニバ

スを見た時、求めるものには生涯スポーツとチャンピオンスポーツの両面があると思います。どちらを求めるかはそれぞれの子供により価値感がちがうと思います。チャンピオンスポーツの方向にだけ向けたのでは裾野を小さくしてしまうでしょうし、生涯スポーツだけを求めれば、競技レベルという問題はでないと思います。

いずれにしてもこの頃の子供たちのスポーツは、楽しいというだけで十分だと思います。そして競技としてのバスケットだけではなく、勝利を求めて心を寄せ合うというチームスポーツの良さも体験させてやりたいと思います。

中学校女子の問題ですが、ミニバスをやった子供たちは高校に入った時に求めてバスケット部に入るようです。チャンピオニアスポーツとして、あるいは生涯スポーツとして、いずれを目指しようか、とにかくバスケットをしてみたいと望む女子生徒が多いことは、ミニバスの成果だと思います。

司会 今問題につきましては地域スポーツクラブの大会は全国につながっていますが、中体連の大会に比べてきわめて大会の数が少い状態です。同一校の仲間のクラブチームであれば中体連の大会に出られますが、その大会に比べてきわめて大会の数が少い状態です。同一校の野球でクラブ組織として出来ないかという方向を模索している段階です。かつてのスポーツ少年団的なものを作つてはと考えておられますか。

長谷川(バレーボール) いまほどのかということと、大会が中体連主催のものがほとんどでなければ出場の場がないという問題です。しかし十分な活動ができるなくとも、ミニから高校へのつなぎにしかなれなくとも、やりたいという子供たちの気持ちを大切にし、ぜひ実現したいと考えております。

中学校で三位になり北信越に出場した例もあります。そのうちに複数の校区の集まりであるクラブチームも出場できるような体制が出来ていいと思います。これからは学校の部活動のあり方も変つて行くべきだと思いつます。放課後になつたら、自分の目標に応じたクラブチームや教室へ出かけて行って、スポーツを楽しんだり、チャンピオンスポーツを目指して活動するといったシステムがほしいと思います。柏崎のジュニアスポーツの振興を考えた時、一日も早く取り組んではしいと思います。

今を見すえながら何年後かを考えます。柏崎のジュニアスポーツの振興を考えた時、一日も早く取り組んではしいと思います。

今を見すえながら何年後かを考える必要があります。ところで優秀な選手が県外に出て行くという意見もありましたが、外に出て力をつけ大きな大会で活躍した選手たちが、力をつけて地元に帰り、指導者として後輩を育てるといった場の設定があれば、長い目で見た時プラスになるのではないでしょうか。

司会 本日、小体連の代表の方



だという声が出ています。

長谷川(バレーボール) いまほど多くのかということと、大会が中体連主催のものがほとんどでなければ出場の場がないという問題です。しかし十分な活動ができるなくとも、ミニから高校へのつなぎにしかなれなくとも、やりたいという子供たちの気持ちを大切にし、ぜひ実現したいと考えております。

中学校で三位になり北信越に出場した例もあります。そのうちに複数の校区の集まりであるクラブチームも出場できるような体制が出来ていいと思います。これからは学校の部活動のあり方も変つて行くべきだと思いつます。放課後になつたら、自分の目標に応じたクラブチームや教室へ出かけて行って、スポーツを楽しんだり、チャンピオンスポーツを目指して活動するといったシステムがほしいと思います。柏崎のジュニアスポーツの振興を考えた時、一日も早く取り組んではしいと思います。

今を見すえながら何年後かを考えます。柏崎のジュニアスポーツの振興を考えた時、一日も早く取り組んではしいと思います。

今を見すえながら何年後かを考える必要があります。ところで優秀な選手が県外に出て行くという意見もありましたが、外に出て力をつける大きな大会で活躍した選手たちが、力をつけて地元に帰り、指導者として後輩を育てるといった場の設定があれば、長い目で見た時プラスになるのではないでしょうか。

司会 本日、小体連の代表の方

●もう小学校段階で何々小学校が勝ったとかいう時代ではないのでなかろうか。特に個人スパートにおいては……

例えは、陸上競技なら好きな子供や、やりたい子供を集めて陸上競技教室を開き、合同練習

優秀選手の発掘に

司会 ところで、ジュニアスポーツの振興との関連になりますが、素質のある選手をどこでどう発掘するかということも重要な課題になります。陸上競技の方で酒井先生、いかがですか。

酒井（陸上競技）今回の大きなテーマである強い選手を育てるという面で考えてみると、陸上競技の場合、一部の種目を除いては素質の占める部分が非常に大きいと思うのです。特にスプリントやジャンプ系についていえば、いくら立派な指導者がいても、素質のない選手にとって残念ながら逆転はほとんどあり得ません。

そこで早い時点で素質のある子供を見つけて、その子に意欲

優秀選手の発掘について

ついて

を持つて中学、高校、その上と競技を続けさせることが、全国に通用する選手の育成の一つかと思います。そしてその目的のため陸協では小四、五、六年と中学一年を対象とした今井哲男記念ジュニア大会を設けております。

私は小学校で陸上競技を部としてやるのは個人的には反対です。むしろその頃にはミニバスやサッカーなどをやっていてほしいのです。ただし、自分にはそういう素質があるんだと言うことを本人と小学生の先生に知つていてほしいのです。

勝つにはその子供の持つている素質を早く見つけてやることが重要だと思います。

●ミニバスの普及率が高い柏崎ジュニアチームとかジュニアクラブとして成長させ、中、高へとつなげていってはどうか。中学校では大きな問題である。中学校女子の部をぜひ創設してほしい。

(中、高体連の指導者の協力も得て)が指導をする。そして、柏崎ジュニアチームとかジュニアクラブとして成長させ、中、高へとつなげていってはどうか。

司会 柏崎の公共的スポーツ施設を活用するについての活用上の問題点と、充実してほしいと思われる施設についてのご意見を頂きたいと存じます。

酒井（陸上競技）柏崎には伝統があるハンマー投げがあり、世界陸連では女子にもハンマー投げを導入するという動きがあります。その上、柏崎工業高校には専門の指導者がおり、素質のある選手も多くいます。ところが柏崎には投てき専用の練習場がありません。力のある生徒を埋もれさせないためにも、ぜひ練習場を作つてほしいと思いま

す。

小幡（バレーボール）冬場のトレーニングとしてけがや故障を防ぎ、バランスのよい筋肉や身体を作るため、週2回、体育館のトレーニングルームを使っているのですが、団体利用の場合は割引ができないでしょうか。

松尾（水泳）アクトアパークの50mプールを半年ほど借りましたが、一コース六千円は高額すぎると思います。民間のスイミングの生徒であっても、市内の中学生が対象なのでから、考慮してほしいと思います。

入沢（バスケットボール）生徒のがいかわる医療施設のこ

とでお話したいと思います。

生徒が故障した時、診断、治療リハビリまで継続して指導して頂ける医療機関が少ないよう

に思います。あっても授業を休まないと行けない医療機関がほとんどで、手おくれになりはしないかと不安になることがあります。どこかで指導者が医療機関と接点を持つチャンスを、体育団あたりで作つてほしいと思

います。

松尾（水泳）水泳でも肩を痛める選手が多いのですが、柏崎ではやはりスポーツドクターの数が少ないようです。それに入沢先生も言われたように時間的な面での配慮もぜひして頂きたい

と思います。

武藤（陸上競技）私は東電に勤務していますが、東電ではメンタルヘルスの面でスポーツドクターを招いてセミナーを開いております。皆様にご希望があればぜひこのような機会をご利用下さい。また、構内で駅伝大会やバスケットボール、テニスなどの交流試合などにも、ぜひお出かけ頂きたいと存じます。

司会 スポーツ医療のことは、医師をお招きして研修会を待ちました。この時の講師をして頂

いた整形外科の内山先生は、児童生徒のスポーツ障害について深く関心を持っておられます。その後も、体育課職員と医師会の皆さんが、この問題について話し合いを持つております。そんな芽も柏崎では今、出ております。体育団でもこのことについては、前向きに取り組みたいと思います。



## 女性スポーツクラブの紹介

貴女もサッカー

はじめてみませんか

柏崎「みんなす11」

部長 池田 功

柏崎に県下で六番目、市内で

は初の女子サッカーチーム。み

んすぐ11が誕生したのは、今

から四年前、まだサッカー人気

が起る前でした。社会人、高

校生を中心の十六名のメンバーで、

週二回旧一中グラウンドで、夕

方から時にはナイター野球の後

方で練習をし、翌年には県大会

二位という思ってもみなかつた

好成績で、柏崎体育団の奨励賞

も受け、大変盛り上がりを見せ

たものです。

しかし高校生の受験、卒業、社会人の方が結婚したりで、チームが半減、現在は低迷しております。

アトランタオリンピックの正

式競技種目にもなり、全国的にますます女子サッカーチームの誕生が聞こえています。中学

生チーム、おばさんチーム、そ

して企業チームまで、各地でブー

ムになりつつあるのが現状です。

柏崎から将来オリンピック選手

が育つ可能性もあなたがち夢では

ありません。

そもそもサッカーとは、青空

の下、緑の広い芝のグラウンドで

十一名の選手が、自由な発想で

相手チームのゴールを目指し、得点を競うゲームです。もちろん、いろんなチームとしての戦術はありますが、まったく同一

の得点シートはありません。

だからいつも新鮮で感動的な

ものです。選手同志の無言の

コミュニケーション(アイコンタクト)が通じ合った時、得点を

したり防いだりできるのです。

その感動を得る為に、「みんなで練習をし、また個々の技術、スマ

ミナ、センス等を高める必要

があるのです。

観戦するサッカーから、実践

するサッカーに、貴女を置いて

みませんか。きっと人生が豊か

に変わること思います。

「みんなす11」はクラブ員募

集中です。楽しい仲間の一員になつてみませんか。

(TEL 二四一五〇〇二)

女子ソフトボーラーチーム  
かしわレディース紹介

平成元年、それまで柏崎には女子ソフトボールチームが一つもなく、なんとかチームを結成し、長岡で行なわれる大会に参加しようと、声をかけあつた結果

、二〇代から四〇代のハツラ

ツ女性が市内各地から集まり、

チームができあがりました。初

対面の人とも、これから同じチ

ームで同じスポーツをするとい

う事で、一〇年も「彼らの友人の

ように親しく話ができるのです。

監督は、金子錦弥氏が結成の

時から現在まで務めています。

練習は、毎週日曜日の2時間は

です。夫婦揃ってストレス解

消に来ている人。子供連れで参

加してくれる人。皆さん、気軽に

に楽しく練習しております。

結成2年目には、チーム名を

「わかば」から現在の「かしわ

レディース」に改め、メンバー

の家族の協力で念願のユニホー

ムも揃い、大会にも、毎年参加

させて頂いております。

あの皇太子妃雅子様も学生時

代ソフトボールをしていらした

というすばらしいスポーツです。

経験者の方はもちろん未経験者

の方も大歓迎です。

さあ、女性の皆さん、女子ソ

フトボールの輪を柏崎中に広げ

て、大いに楽しみましょう。

御連絡を、お待ちしております。

私たち「はまなす」は、昭和六十二年に柏崎市で「第三回新潟県家庭婦人バレーボールシニア大会」が開催されたのを機会に、当時四十五才以上でバレーボールを楽しんでいた人達と、

その大会の運営をお手伝いして

くださった役員を中心に結成さ

れたクラブチームです。

これまで家庭婦人としてバレーボールを通じてその普及と仲間づくり、主婦としての健康の保持増進を目的に、現在は三十五才から六十才までの二十名が活動を

続けております。

この間平成元年には「第四十

三回国民体育大会の北信越予選

連絡先

堀井絹枝 二二一五九六五

大掛亮子 二四一三一四四

佐藤 文子

年をとつたらこの指とまれ



をはじめ、各種大会に出場し技術の向上と親睦を図ってまいりました。

このたび「第五回全国家庭婦

人バレーボールいそじ大会」

(五十才以上の者で構成する大

会)県予選会で優勝し、初の全

国大会出場権を獲得いたしました。

私たちの力がどれだけ全国大

会で通用するのかわかりませんが、多くの方々のご支援に守られながら、日々の練習の成

果が発揮できるよう頑張る覚悟です。暖かいご支援をいただきまして有難うございました。

「もう年だから」「若い人の邪魔になるから」と、遠慮され

ている皆さん「はまなす」へおいでください。週一回チームワークとけがをしない事をモットー

に練習に励んでおります。むそ

いでください。週一回チームワ

ークとけがをしない事をモットー

みんなでバレーボールを楽しみ

ましょう。お待ちしております。

私たち「はまなす」は、昭和六十二年に柏崎市で「第三回新潟県家庭婦人バレーボールシニア大会」が開催されたのを機会に、当時四十五才以上でバレーボールを楽しんでいた人達と、

その大会の運営をお手伝いして

くださった役員を中心に結成さ

れたクラブチームです。

これまで家庭婦人としてバレーボールを通じてその普及と仲間づくり、主婦としての健康の保持増進を目的に、現在は三十五才から六十才までの二十名が活動を

続けております。

この間平成元年には「第四十

三回国民体育大会の北信越予選

会には、表として出場したの

事務局 早津康浩 宮下真知子

編集人 藤田克子

近藤康信

杵渕広市 若月キヨ

松田博 小林ミツ子

渡辺郁

本号は柏崎のスポーツ、体育の振興をテーマに特集を組んでみました。ご協力頂いた各競技団体に厚くお礼申し上げます。

をはじめ、各種大会に出場し技術の向上と親睦を図ってまいりました。

このたび「第五回全国家庭婦

人バレーボールいそじ大会」

(五十才以上の者で構成する大

会)県予選会で優勝し、初の全

国大会出場権を獲得いたしました。

私たちの力がどれだけ全国大

会で通用するのかわかりませんが、多くの方々のご支援に守られながら、日々の練習の成

果が発揮できるよう頑張る覚悟です。暖かいご支援をいただきまして有難うございました。

「もう年だから」「若い人の邪魔になるから」と、遠慮され

ている皆さん「はまなす」へおいでください。週一回チームワ

ークとけがをしない事をモットー

みんなでバレーボールを楽しみ

ましょう。お待ちしております。

私たち「はまなす」は、昭和六十二年に柏崎市で「第三回新潟県家庭婦人バレーボールシニア大会」が開催されたのを機会に、当時四十五才以上でバレーボールを楽しんでいた人達と、

その大会の運営をお手伝いして

くださった役員を中心に結成さ

れたクラブチームです。

これまで家庭婦人としてバレーボールを通じてその普及と仲間づくり、主婦としての健康の保持増進を目的に、現在は三十五才から六十才までの二十名が活動を

続けております。

この間平成元年には「第四十

三回国民体育大会の北信越予選

会には、表として出場したの

事務局 早津康浩 宮下真知子

編集人 藤田克子

近藤康信

杵渕広市 若月キヨ

松田博 小林ミツ子

渡辺郁

本号は柏崎のスポーツ、体育の振興をテーマに特集を組んでみました。ご協力頂いた各競技団体に厚くお礼申し上げます。